

5	教職員の研修の充実と資質の向上	全教職員の共通理解、共通実践の浸透を図ることで、一人一人の学校運営への参画意識を高め、指導力の向上につなげる。	教務 教頭	学校研究を初めとし、生徒指導、健康安全、特別活動の全ての教育活動において、全教職員が共通理解・共通実践することが学校全体の指導力向上につながることを実感する必要がある。そのために、校内を見回り、授業の様子や児童の活動の様子等を細かく観察し、学年・学級間の意思疎通の状況等も含めて判断し、声かけをする。	【努力指標】 職員会議や研究会等で共通理解した内容について、自己の向上、児童の向上のために共通実践しようと努めている。	共通理解した内容について、 A：実践し、児童に身につけさせることができたと思う。 B：実践し、児童に身につけさせようと努力した。 C：実践したが、児童に身につけさせることができなかった。 D：ほとんど実践しなかった。	A + Bで90%以上をめざす。	7月、12月に教員を対象に調査
6	生徒指導の充実	相手を意識しながら、時や場に応じたあいさつができるようにする。	生徒指導 主事 生徒指導	朝のあいさつ運動など集団で行うあいさつはよい。しかし、来校者や保護者に日常的に言えない子が多いので、きちんと挨拶ができるように習慣づけたい。	【成果指標】 来校者や保護者に対してのきちんとした態度であいさつをさせる。職員は共通理解を図り、指導にあたる。	A：だれに対しても進んであいさつができる。 B：だれに対してもあいさつができる。 C：あいさつをされれば返すことができる。 D：あいさつをされても返さない。	なかよしチェックアンケート「進んであいさつをする」の項目でA + Bで80%以上をめざす。70%以下では検討課題となる。	7月、12月に教員・児童・保護者を対象に調査
		学校が楽しいと感じる児童を増やしていく。		ほとんどの児童は明るく元気で素直な児童である。しかし、不登校傾向の児童は少なからずいるので全職員で対応していかなければならない。子どもたちが学校を楽しいと感じることで学級や学年の集団としての所属意識を高め、自己の存在感をもたせていきたい。	【努力指標】 グループエンカウンターを行い、児童同士の人間的なふれあいをもてるような場を設定し、存在感をもてるようにする。付箋を利用して、児童のリソースを全職員で情報交換し、児童に還元することで自己肯定感を高めていくようにする。	A：学校がとても楽しいと感じている。 B：学校が楽しいと感じている。 C：学校が楽しくないと感じている。 D：学校に来ない。	なかよしチェックアンケートの「学校がとても楽しい」「学校が楽しい」の合計が児童で85%以上をめざし、Dを0%にするように目指す。	7月、12月に児童を対象に調査
7	主体的に活動できる活動の充実	委員会やなかよし活動など、児童が自分たちで考えて実行できたという達成感をもてるよう支援する。	特別活動	与えられた役割を果たそうと努力する姿は多く見られる。一方、主体的に欠け、進んで活動に取り組もうとする児童が少ない。	【成果指標】 自分たちでできたという満足感や次もがんばろうという意欲がもてるような場の設定や時間の保障をする。	担当の委員会、クラブ、なかよし班で、児童が主体的に活動している。 A：30%以上が活動できた。 B：20%以上が活動できた。 C：10%以上が活動できた。 D：多くが指示を待っていた。	A + Bで80%以上良好。 Dの場合は、担当者から働きかけ、意識を高める。	7月、12月に教員を対象に調査

本年度の重点項目

3	健康, 体力向上を育む教育の充実	非常時における安全な行動ができるように取り組む。	保健主事 健康安全	避難訓練や学級活動などを通して, 非常時の対応は知っているものの, 自分で考え, 安全な行動がとれるとは限らない。	【努力指標】 安全意識のより一層の定着を図り, 迅速かつ適確な行動を取ることができるように避難訓練などを通して指導する。	A: 十分意識している。 B: 意識している。 C: あまり意識していない。 D: ほとんど意識しない。	A + Bで90%以上をめざす。	7月, 12月に教員を対象に調査
		体力・運動能力調査結果を踏まえ, よさや弱みを意識した体育の授業の工夫・改善に努める。	体力づくり推進	昨年度の新体力テストの結果, 「投げる力」「とぶ力」が低いことが明確となった。体育の時間に行えるような運動を教職員に紹介し, 意識して取り組めるようにする。	【努力指標】 体力・運動能力調査結果を意識して体育の授業の工夫改善に努める。	A: 十分意識して取り組めた。 B: 意識して取り組めた。 C: あまり意識して取り組めなかった。 D: ほとんど意識しなかった。	A + Bで90%以上をめざす。	7月, 12月に教員を対象に調査
		望ましい栄養や食事の取り方を理解させ, 心身の成長や健康の保持増進の指導に努める。	栄養士 保健主事 健康安全	学校給食は, しっかり食べる児童が多く, 全体的には残食が少ない。反面, 嗜好に任せたまま嫌いなものは食べない児童もいる。	【成果指標】 食育を通して健康や成長のことを理解させ, 苦手な食べ物も進んで食べるようにする。また, 感謝の心も育む。	給食を残さずに食べていますか, A: 毎日, 残さず食べている。 B: 残すことがある。 C: 時々残すことがある。 D: 残すことが多い。	A + Bで85%以上をめざし, 「食べるの大好き高松つ子」を育てる。	7月, 12月に児童を対象に調査
		早寝・早起き・朝ご飯で, 睡眠時間の確保と食習慣を含めた望ましい基本的な生活習慣の育成・向上に努める。		スポーツ教室等で帰りが遅く十分な睡眠をとれない子には, 家庭学習をスポーツ教室へ行く前にすませておくなど工夫するように指導してきた。今年度は学年が上がるに従ってテレビ・ゲーム等で睡眠時間が少なくなる傾向に留意したい。	【努力指標】 帰宅後の時間の使い方を工夫し, 睡眠時間を十分にとるように働きかける。そのために, 睡眠の必要性について, 保健学習や学級活動で指導する。	寝る時刻は大体何時頃ですか。 A: 9時までに寝ている。 B: 10時までに寝ている。 C: 11時までに寝ている。 D: 11時よりおそくに寝ている。	A + Bで85%以上良好。 C・Dと答えた児童には個別指導が必要。高学年児童が習い事のせいにしないよう配慮。	7月, 12月に児童を対象に調査
4	開かれた学校と特色ある学校経営の推進	学級・学年・学校からの各種通信を通して学校生活の様子を知らせたり, ホームページの更新に努めたりし, 保護者や地域の学校に対する関心が高まるようにする。	学級担任 HP担当 教頭	学校の教育活動の一環を学級・学年通信, 保健や給食などの学校だよりとして保護者に発信している。また, ホームページでは, 「砂丘」や毎月のカレンダーを更新しながら学校の様子を伝えている。また, 学校支援ボランティアとの連携でホームページ内容の充実と更新に努めている。	【満足度指標】 保護者が定期的な通信やホームページに目を通し, 学校の教育活動の様子に関心をもっている。	学校からの便りやホームページを A: よく見ている。 B: ほぼ見ている。 C: あまり見ていない。 D: 見ていない。	A + Bで80%以上良好。 A + Bが80%以下の場合は, アンケートに記された要望を積極的に反映させていく。	7月, 12月に保護者を対象にアンケート調査する

平成25年度 かほく市立高松小学校 学校評価計画

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判断基準	備考
1 基礎・基本の定着と活用力の向上	お互いの考えを深め合うために、工夫を取り入れた授業の実践に努める。	研究主任 学習指導	自分の考えを発言する姿は見られるが、相手意識をもって高め合い、学び合う授業は多いとは言えない。相手にわかってもらおうという気持ちを高める工夫やみんなにわかるような話し方を指導していくことが必要である。	【成果指標】 自分の考えや理由を根拠をつけて話す場やペアやグループで話す場を設定して、互いの考えを深め合うための工夫をしている。	一日のうち A：3時限以上できている。 B：2時限はできている。 C：1時限はできている。 D：ほとんどできない。	A+Bで80%以上良好。 C・Dの場合、教材研究、授業改善に努めたい。	7月、12月に教員を対象に調査
	家庭学習の習慣化と充実を図る。	研究主任 学習指導	家庭学習＝宿題という捉えでなく、自学自習の力もつけたい。計算や漢字ドリル、本読みなどの宿題のほか、自主学習にも取り組むよう家庭学習の仕方を教えていく。	【成果指標】 家庭学習のルールを守り、目標とする学習時間(学年×10分)、集中して取り組んでいる。	学年の目標とする学習時間の定着度 A：クラスの90%以上している。 B：クラスの80%以上している。 C：クラスの60%以上している。 D：クラスの60%未満。	A+Bで90%以上良好。 C・Dについては、家庭と連携を図りながら指導していく必要がある。	家庭学習カードで調査
	言語活動や自学自習の基礎となる読書を奨励する。	司書教諭 図書館司書	読書好きな児童とそうでない児童の二極化傾向があり、貸し出し冊数にも差がある。	【成果指標】 年間一人50冊(学期ごとに20冊、20冊、10冊)以上を目標とし、学期ごとの貸し出し数を問う。	目標冊数の学級での達成率を見る。 A：80%以上。 B：70%以上。 C：60%以上。 D：60%未満。	Aが10%優秀。 Bが30%良好。 Dについては個別指導検討。	図書記録で調査
	家庭と連携した読書活動を推進する。	学習指導 司書教諭	読書活動の推進に理解を示す家庭がほとんどだが、児童と一緒に読書をする家庭は少ないと思われる。	【成果指標】 いしかわ読書の日を意識し、家族と一緒に読書をしている。	家庭読書をしている回数 A：月に1回以上。 B：2ヶ月に1回程度。 C：3ヶ月に1回程度。 D：1回もしていない。	A+Bで80%以上良好。 C・Dについては、家庭への呼びかけをする。	7月、12月に保護者を対象に調査
2 道徳教育と人権教育の推進	道徳の時間を大切に、心に響く授業づくりに努める。	道徳推進	道徳の授業を公開する意識は高まりつつあるが、心のノートや外部人材の活用などの工夫をし、心に響く道徳の授業がなされているとは言い難い。	【成果指標】 全学級で授業公開をする。 心に響く授業づくりの工夫をする。 アさし絵の準備 イワークシートで心の変容をつかむ ウ外部人材の活用 エ授業の足跡を掲示し残す オいしかわ版どうとくや心のノートを活用する	前期のうちに と の中の A：4項目以上に取り組んだ。 B：3項目以上に取り組んだ。 C：2項目以上に取り組んだ。 D：1項目以上に取り組んだ。	A+Bで80%以上良好。 C・Dの場合は、担当者から働きかけ、意識を高める。	7月、12月に教員を対象に調査